令和６年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名　研究1　研究部（医学部）

中間責任者②（部長・委員長等）氏名　医学部長　金子　一成

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）						教育研究推進委員会による点検・評価		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）		該当事項(※1)	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告	
				途中経過・状況	評価(※2)	部門講評		評価(5段階)	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1	科学研究費助成金を始め外部資金獲得の向上を戦略的・計画的に図る。	①②	１）令和6年度文科省科研費採択件数239件（医学部：186件）、採択金額4.3億円（医学部：3.6億円）であり、AMED等の研究資金の契約額は2.6億円を獲得している。令和7年度科研費については、中期目標である採択件数250件、採択金額4億円以上を目指している。	A	１）令和7年度文科省科研費については、新規265件、継続165件、申請計430件（医学部：新規221件、継続129件、申請計350件）の申請（前年度比98%）を行った。また、AMEDでは「スマートバイオ創薬等研究支援事業」で大型課題が1件採択されている。	最終報告を待つ。	A	科研費、AMED等外部資金の獲得は全体的に向上している。次年度以降も継続されたい。
	2	戦略的な論文校正・掲載支援、補助金や間接経費を活用した共通機器・設備の充実、並びに研究者の雇用環境の改善等、学内研究支援制度の更なる拡充を図る。	②④	２）これまでの国際論文校正・投稿支援プロジェクト（IF5.0以上）に加え、今年度から若手研究者に対する支援策（IF3.0以上）も加えたことから、現状で英文校正支援を11件、論文掲載支援を9件行った。また、綜合研究施設や動物実験施設の機器・設備も計画的に更新し、研究環境の整備を進めている。	S	２）これまでにIF5.0以上の国際論文校正支援を14件、投稿支援を9件、若手研究者への校正支援を8件、投稿支援を13件、計44件（前年度比157%）の支援を行った。結果、11月30日現在での今年度の英語論文数は318報（医学部：287報）と昨年度から36報増加しており、TOP10%論文割合5.03%（医学部：5.23%）、国際共著論文割合16.04%（医学部：16.03%）となる。（何れもWeb of Science調べ）また、今年度は研究装置及び研究設備とも私学助成に採択され、綜合研究施設・動物実験施設の機器整備を進めることができた。	最終報告を待つ。	S	結果は十分に評価できる。次年度以降も研究者の研究環境の整備に努められたい。
	3	大学間共同研究、研究施設・設備の共同利用等を進める。	②	３）トリノ工科大学との学術交流協定に基づき、10月には医工学センターを設置、今後、医工連携による国際共同研究プロジェクトを推進する土台づくりを進めている。	A	３）10月1日付で医工学センターにPezzotti Giuseppe学長特命教授が着任し、医工連携による国際共同研究の環境整備を進めている。今後、国際著名大学との連携、本学HUB設置、社会連携講座の設置などを推進する。	最終報告を待つ。	A	計画は順調に推移している。次年度以降も積極的な取組を期待したい。
	4	社会実装を念頭においた知財活動推進の継続。	②	４）５）医療ニーズについては、本年度35件の学内ニーズが集まり、今後全国2600社の企業に送付する予定であり、11月27日には、医療ニーズ発表会を開催する予定である。医療シーズについては、10月9日(水)～11日(金)に開催されるBioJapan2024への出展、11月7日(木)に医薬品・医療機器系WISH&SEEDsマッチング会を開催するなど継続的に推進する。	A	４）５）医療ニーズについては11月27日に発表会を開催し、27件の面談オファーが現在進行中である。また、医療シーズは、11月7日(木)に本学でWISH&SEEDsマッチング会を開催、延べ86名が参加し、現在もマッチング実践中である。特許出願としては、1月現在19件出願、外国出願はJST海外出願支援制度の審査済４件採択２件につながっている。	最終報告を待つ。	A	社会実装への取組については外部機関からも評価されている。次年度以降も継続されたい。
	5	医療ニーズ・シーズに基づく戦略的社会実装の推進。	②						
期中追加 目標・計画									

令和６年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名　研究2　研究部（看護学部）

中間責任者②（部長・委員長等）氏名　看護学部長　加藤　令子

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）						教育研究推進委員会による点検・評価		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）		該当事項（※1）	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告	
				途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1	臨床看護学教員と連携し、科研費および外部研究資金申請率の向上を目指す	③	・本大学院修了生の臨床看護学教員1名と連携し科研1件に申請予定	B	・本大学院修了生の臨床看護学教員1名と連携し、科研1件に申請 ＊臨床看護学教員制度開始年度であり、１件の申請は評価できる	最終報告を待つ。	B	適切な取り組みがなされている。引き続き申請率向上に期待する。
	2	科研費および外部研究資金の採択率の向上を図る	①②	科研：令和６年度の科研申請件数は49件（新規：32件）、令和５年度44件（新規：21件）と申請件数は増加。新規採択件数は、令和６年度14件（43.8%）、令和５年度５件（23.8%）と採択率が上昇。 外部資金（新規）：教員2件、院生1件 ・古藤雄大：日本先天代謝異常学会 ライソゾーム病に関連する研究費の公募事業(サノフィLSDグラント)、課題名：ファブリー病患者のQOL と外気温変化における関連:縦断的観察研究、期間：2024年6月～2025年3月、助成金額：60万円 ・園田希：日本私立看護系大学協会　若手研究者研究助成 テーマ：日本版「包括的中絶ケアの指針」作成を目指したWHOガイドラインに基づく中絶後ケアの実態調査、期　間：2024年7月～2026年3月、助成金額：50万円 ・貝津里乃（M2）：2024年度　公益財団法人木村看護教育振興財団　看護研究助成、研究課題名(助成当時):炎症性腸疾患患者の治療選択におけるシェアード・ディシジョンメイキングへの看護支援の探求、助成金額：52万５千円	B	・最終：科研：令和６年度の科研申請件数は49件（新規：32件）、申請率94%、新規採択件数は14件（43.8%）：中間報告と同様 ＊令和５年度より申請件数と採択件数が増加したことは評価できる。今後は、申請100%を目指す ・最終：外部資金（新規）：教員2件、院生1件：中間報告と同様 ＊令和５年度は1件であり、採択数は増加した	その他についても、最終報告を待つ。	B	科研費、外部資金ともに前年度よりも採択件数が増加し、目標を概ね達成している。
	3	英文論文投稿への支援を継続し、英文誌掲載数の増加を図る（博士学生・教員）	②③	教員３件（内1件は博士学生と同）、博士学生1件採択 ・Koto Y, Tanaka M, Ueki S, Niinomi K. Experiences of siblings of children with profound intellectual and multiple disabilities: a qualitative systematic review protocol. JBI Evid Synth 2024. in press. ・Nishimura A, Masuda C, Murauchi C, Ishii M, Murata Y, Kawasaki T, Azuma M,Harashima SI.：Relationship Between Frailty and Diabetic Pharmacologic Therapy in Older Adults with Type 2 Diabetes: A Cross-Sectional Study,Drugs Aging. 2024,Jun;41(6):531-542. doi: 10.1007/s40266-024-01119-8. Epub 2024 May 25. PMID:38795310; PMCID: PMC11193829. ・Hikaru Mizuno（D）, Yu Fujimoto, Yoshiko Furukawa, Mayu Katashima, Koji Yamamoto, Kayoko Sakagami, Maya Nunotani, Natsuko Seto：Development and Validation of an E-Learning Educational Program for Acquiring Basic Knowledge in Inflammatory Bowel Disease Nursing,Inflammatory Intestinal Diseases 9(1),125-134.	A	・最終採択：教員10件（内2件は博士学生と同じ）、博士学生２件 ＊令和５年度より5件採択数が増加した。現在、投稿中の論文もあり、教員の英文論文投稿への意識の高まりが見られた。本年度から開始した、看護学部独自での掲載費補助を今後も継続し、投稿を促す。しかし、同一教員の採択となっているため、支援を強化することで他教員や博士後期課程学生の投稿を促す	その他についても、最終報告を待つ。	A	英文論文数が順調に増加している。今後は掲載費補助制度を活用しつつ、幅広い教員や大学院生が英語論文を投稿し、採択されることに期待する。
	4	Minnesota State University Mankateとの教員のExchangeの支援体制を整える	①③	・教員のExchangeが可能となるACADEMIC COOPERATION AGREEMENTを交わす準備が完了	S	・正式にMOU締結 ・2025年３月学生10名（希望者19名より選抜）2週間の短期留学開始：教員2名引率 ＊教員のExchangeの土台づくりを進める	最終報告を待つ。	S	連携や学生の留学が進められ、目標が十分に達成されている。
	5	KMU看護学部研究コンソーシアム助成の研究成果による教育の質向上を図る	④	・令和4・5年度に助成したシミュレーション教育とOSCEに関する研究成果は教育の質向上に貢献 ・シナリオを用いたシミュレーション教育は全領域で実施中 ・令和５年度より４年生を対象にOSCEを開始	A	研究成果による教育の質向上と課題を明確にする目的で以下を実施 ・第８回学術祭で２演題、第44回日本看護科学学会学術集会（熊本）で４演題(各2演題）で教育効果と課題について発表 ・研修会開催：12月25日外部講師招聘 ＊研究成果により、確実にシミュレーション教育とOSCEへの教員の認識の高まり、教育内容の見直しが図られ、教育の質の向上に繋がっている	具体的な最終報告を待つ。	A	助成による研究成果を、適切に教育の質向上に繋げられている。
期中追加 目標・計画									

令和６年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名　研究3　研究部（ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部）

中間責任者②（部長・委員長等）氏名　ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部長　飯田　寛和

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）						教育研究推進委員会による点検・評価		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）		該当事項（※1）	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告	
				途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1	科研費を含む外部研究資金獲得強化に向けての取り組みを充実させる	②③④	外部研究資金獲得に向けてFD研修の実施やメール・ポスター掲示等による情報共有を行った。	A	リハビリテーション学部の科研費の申請率は110％と非常に高い申請率であった。令和6年度の科研費の獲得状況について、リハ学部の採択率は68.8％と全国的にみても高い採択率であった（関西医大全体での採択率は54.4％）。さらに、加多乃会研究助成では本学部より1名が受賞した。	さらなる充実を期待する。	S	結果について十分評価できる。次年度以降も継続されたい。
	2	外部研究資金の申請書作成指導等、若手研究者の研究活動を推進できるよう支援を行う	②③④	研究助成申請書の作成指導や研究機器貸出等、若手研究者の研究活動支援を行った。	A	若手研究者の育成に努め、科研費その他研究助成金の外部資金獲得にあたっての申請書作成指導や研究計画書の指導、研究機器の貸し出しなど、若手研究者の研究活動を推進できるよう教授が中心となり支援を行った。	さらなる充実を期待する。	A	次年度以降も支援を継続されたい。
	3	リハビリテーション学部の研究活動を活性化し、論文数年間25報、うち国際学術雑誌割合80％を目指す	②④	2024年論文数は15本以上（8月5日現在）であり、目標値を達成できる見込みである。	A	リハビリテーション学部教員の学術雑誌に受理・掲載された論文数は30 本以上（うち国際学術雑誌割合90％）であり、目標値を上回る研究成果をあげた。	最終報告を待つ。	S	結果について十分評価できる。次年度以降も積極的な論文投稿を期待する。
	4	大学院修士課程の2025年4月開設に向けて、大学院生の研究指導体制の整備をはかる	②④	文科省の大学院申請認可がおりた後、大学院生の研究指導体制の整備をはかる予定である。	A	８月下旬に文科省の大学院申請認可がおりた後、各規程・学則の改定・策定や大学院生の研究指導体制の整備をはかった。	最終報告を待つ。	B	次年度以降の継続的な報告を待つ。
	5	学部横断型共同研究を推進する	②④	学部横断型共同研究とともに他大学や一般企業との共同研究を進めている。	A	リハビリテーション学部において地域在住高齢者を対象として運動機能や心理・認知機能、口腔機能等の測定会を実施し、医学部や京都大学大学院医学研究科、一般企業と連携して共同研究を行っている。	具体的な最終報告を待つ。	A	次年度以降のさらなる活動に期待する。
期中追加 目標・計画									

令和６年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名	研究4	生命医学研究所運営委員会
中間責任者②（部長・委員長等）氏名		生命医学研究所長 日笠　幸一郎

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）						教育研究推進委員会による点検・評価		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）		該当事項（※1）	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告	
				途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1	基礎臨床連携研究、産学官共同研究、国際共同研究の推進	①②	基礎臨床連携研究60件、産学官共同研究4件を推進	S	基礎臨床連携研究75件（オミックス解析594検体・ゲノム改変動物樹立18系統）、学外共同研究55件、国際共同研究7件（トリノ工科大学等）、産学官共同研究10件を推進	最終報告を待つ。	S	基礎臨床連携研究、産学官共同研究ともに目標を大きく達成されている。
	2	独自性や特色ある研究の開拓および論文発表・学会発表の促進	①②	論文11報、著書1編、学会15題を発表	A	論文22報、著書5編、学会34題を発表	更なる充実を期待する。	A	次年度以降も継続した活動を期待する。
	3	科研費・AMED等の公的研究資金の獲得	②	科研費35件、AMED6件、助成金11件を獲得、特許2件を出願	A	科研費36件、AMED/JST6件、助成金17件を獲得、特許5件を出願	更なる充実を期待する。	A	次年度以降も継続した活動を期待する。
	4	研究医養成コース、学部・大学院教育の推進	②④	研究医養成コース6名、大学院生7名を指導、医学部24コマ・大学院55コマの講義を実施	B	研究医養成コース6名、大学院生7名を指導、配属実習生23名を受け入れ、医学部61コマ・大学院76コマの講義を実施	更なる充実を期待する。	B	次年度以降のさらなる活動に期待する。
	5	研究所共同研究施設の管理・運営サポート	①④	綜合研究施設・臨床研究支援業務体制を確立、バイオバンク組織の改変	A	綜合研究施設・臨床研究支援業務体制を確立し、臨床10講座の支援を実施。バイオバンク事業を推進し2,401検体と56画像データを保管。	最終的な研究者への影響を期待する。	A	次年度以降も継続した活動を期待する。
期中追加 目標・計画									

令和６年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名	研究5	光免疫医学研究所運営委員会
中間責任者②（部長・委員長等）氏名		光免疫医学研究所長 小林　久隆

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）						教育研究推進委員会による点検・評価		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）		該当事項（※1）	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告	
				途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1	統括部門および3つの研究部門（基盤開発部門、免疫部門、腫瘍病理学部門）において適切な人材の確保を進め、最終的には総勢30名程度の研究所とする。	①②	2名の増員	B	3名の増員	最終報告を待つ。	B	適切な人員体制が整えられている。
	2	本学附属病院の光免疫療法センターと連携して、光免疫療法実施後の臨床検体を解析し、様々な臨床データを得ることで、光免疫療法の発展に貢献。	①②	共同の臨床研究を申請中	B	共同の臨床研究が本学倫理審査委員会で承認	最終報告を待つ。	B	次年度以降も継続的な取組に期待する。
	3	本学内における共同研究を積極的に行い、光免疫療法のさらなる発展および本学の研究力向上に貢献。（数値目標：研究所全体として学内共同研究3件以上）	①	複数の学内共同研究を実施中	A	学内共同研究：10件以上	更なる充実を期待する。	A	次年度以降も継続的な共同研究に期待する。
	4	外部（大学、研究所および民間企業）との共同研究を積極的に推進し、光免疫療法の研究拠点となることを目指す。	①②	複数の民間企業との共同研究を実施中	A	学外との共同研究：3件 その他多くの外部機関と連携	更なる充実を期待する。	A	今後の発展に期待する。
	5	光免疫療法および関連する分野の研究を推進、外部資金の獲得および成果の報告。（数値目標：研究所全体として外部資金新規獲得5件、国際誌への発表5報以上）	④	科研費を新規に4件獲得 複数の論文発表	S	新規外部資金として科研費4件、その他5件獲得 国際誌への論文発表：12件 国際特許の申請：1件(新規IR 700製造開発)	最終報告を待つ。	A	外部資金の獲得等目標は達成している。今後のさらなる取組に期待する。
期中追加 目標・計画									

令和６年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名　研究6　図書館管理委員会

中間責任者②（部長・委員長等）氏名　図書館長　伊藤　量基

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）						教育研究推進委員会による点検・評価		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）		該当事項（※1）	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告	
				途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1	国際大学院をはじめとする留学生のアクセシビリティ向上。	①	電子リソースを利用するうえで留意すべきUsage Policy等を英語でホームページに掲載準備中。	A	図書館ホームページに『English Guide Page』を新たに設けた。 『English Guide Page』は①Library Guide　②Research & Learningから構成される。 ①Library Guideは利用案内全般、 ②Research & Learningは本学で利用可能なデータベース、図書及び雑誌について、検索方法から利用上の留意点まで把握できることを目的として作成した。内容はKMU Library OPAC、E-books Guide、Database Guide、Academic Tools Guide、E-resources Usage Policyから構成。 電子資料利用時の遵守事項、意図しない大量ダウンロードを防ぐための注意点についても掲載した。 更に、所蔵検索システムの英語対応と本館書架案内図の英語版を作成し、留学生が目的の資料にアクセスできるよう環境を整えた。	最終報告を待つ。	A	留学生等への環境整備については着実に実施できている。今後のさらなる取組に期待する。
	2	3学部、各々のカリキュラム・ポリシーに沿った資料を収集・充実を図る。	②	各学部とも図書委員及び教員に学生用図書の推薦を依頼し、結果に基づいて受入を行った。	B	3学部とも年2回学生用図書の推薦を図書委員及び教員に依頼し、結果に基づいて1,147冊の受入を行った。	秋以降も、引き続き受入れを期待する。	B	次年度以降も継続的な取組に期待する。
	3	書架狭隘化対策に取り組む。	③	書庫において40書架の資料の移動を実施、経年で不均等になっていた配架スペースの適正化を図った。	B	書庫において40書架の資料の移動を実施、経年で不均等になっていた配架スペースの適正化を図った。また、12月末日現在、3学部で43冊の除籍処理を行った。利用状況と６年度末の予算残額を念頭に、更なる見直しについて検討している。	年度末に向けて更なる見直しを待つ。	B	次年度以降もさらなる見直しを期待する。
	4	学生が図書館リソースを円滑に利用できる環境整備。	⑥	学部生が卒業論文作成で頻回に利用する医中誌Webの同時アクセス数の上限をなくし、アクセス環境の改善を図った。同時にVPN経由で学外から利用可能にした。	A	医中誌Webの同時アクセス数の上限をなくし、アクセス環境の改善を図った。結果、5年度に発生していた年間約15,000回(33%)のアクセス不可が解消した。同時にVPN経由で学外からの利用も可能にした。 また、本館ソファの配置を変更し、ソファ6席を利用頻度の多い個席に置きかえた。牧野分室については、図書委員会の取り組みとして閲覧席6席が新たに増設された。	環境整備については、引き続き検討を期待する。	A	図書館リソースの利用に関する環境整備は着実に向上している。今後も継続的な取組に期待する。
	5								
期中追加 目標・計画									

令和６年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名　研究7	外部資金獲得戦略会議
中間責任者②（部長・委員長等）氏名	教育研究企画室長 木梨　達雄

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（**「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め**）					**教育研究推進委員会による点検・評価**		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）	**該当事項（※1）**	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告	
			途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1 文部科学省等が実施するプロジェクト事業の情報収集、企画立案を的確に行い、採択への取り組みを強化する。	②	文科省等関係省庁の審議会や国の政策動向に関して積極的な情報収集を行うとともに、状況に応じて、文科省への事前相談を行うなど、事業申請に向けた企画立案を推進した。	S	文科省等関係省庁の審議会傍聴や事前相談等により積極的な情報収集・事業申請に係る企画立案を推進した。令和6年度は文科省「高度医療人材養成拠点形成事業」に採択された。	更なる対応を期待する。	S	適切な情報収集、企画立案により、プロジェクト事業の採択に貢献された。
	2 URAと連携して科研費等の公的研究費獲得等に対する研究支援強化に係る企画立案を行う。	②	全学的な科研費説明会やリハビリテーション学部及び看護学部のFDにおいて、国の政策等を踏まえた動向や外部資金獲得に向けた情報提供を実施した。また個別教員からの相談に応じた助言に加え、文科省等の事業に合わせてマッチする教員へ応募を促すなど、積極的な支援を行った。	A	全学的な科研費説明会や各学部へのFD実施、個別教員からの相談への助言対応、文科省等の事業にマッチする教員への応募促進など、積極的に様々な支援を行った。	更なる対応を期待する。	A	３学部も含め全学的な取組に期待する。
	3 文部科学省私学助成の各事業（研究装置、教育装置、研究設備、教育基盤設備）に関する補助金獲得に向けた企画立案を行う。	④	令和6年私学助成の獲得に向けて、外部資金獲得戦略会議にて計画調書内容等を審議した上で申請を行った。	S	令和6年度私学助成に関しては、申請した4件（研究装置、教育装置、研究設備、教育基盤設備）すべて採択された。	更なる対応を期待する。	S	成果は評価できる。次年度以降も継続的な取組に期待する。
	4 関係部署と連携して私立大学等改革総合支援事業における採択の維持、獲得点数の向上に取り組む。	②	前年度の課題項目について、関係部署と連携して、改善に向けた状況把握・検討を進めた。さらに、今年度提示のあった変更点の確認及び各取組状況等について、外部資金獲得戦略会議において審議を行い、採択への取り組みを強化する。	A	関係部署と連携して点数改善を促進し、申請を行った。2月下旬頃に採否が確定し、3月中旬頃に補助金額が確定する見込みである。 また次年度の加点に向けた取り組みも進めている。	最終報告を待つ。	A	結果として、今年度も予定の採択を獲得できた。次年度以降も継続的な取組に期待する。
	5 「医師の働き方改革に伴う大学病院改革プラン」の策定に関連して、教育研究機能の維持・向上に関する方策を取り纏め、外部資金の獲得増等につなげる。	③	病院事務部や医学部事務部等と連携して「大学病院改革プラン」の策定にあたり、文科省への情報収集、協議等を行った。	A	病院事務部や医学部事務部等と連携して「大学病院改革プラン」を策定し、大学HPにて公表した。更に、同プランの改訂作業とともに、令和６年度文科省「高度医療人材養成事業」への申請（1/30締切）を行った。	最終報告を待つ。	A	着実に対応されていることは評価できる。継続を期待する。
期中追加 目標・計画								

令和６年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名　研究8　産学知財委員会

中間責任者②（部長・委員長等）氏名　産学知財統括室長　薬師寺　祐介

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）						**教育研究推進委員会による点検・評価**		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）	**該当事項（※1）**	中間報告	最終報告			中間報告評価	最終報告	
			途中経過・状況	評価（※2）	部門講評			評価（5段階）	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1 ①新中期計画 （１） 医療ニーズ、シーズに基づく外的資金獲得、社会実装の質的、量的拡充 （２） 継続的な取組みとするための産学知財の人員増強および体制づくり （３） 国際的な産学知財活動への拡充	①	（１）下記に記載の通り、順調に進捗している。（２）計画中であり、まだ実現していない。 （３）は、下記②に示す通り。	A	（１）下記に記載の通り、順調に進捗している。（２）2025年4月より新体制構築・人員強化をすべく計画中である。（３）医工学センターと連携し、着実に進行している。具体的には下記②に示す通り。	最終報告を待つ。	A	次年度以降も継続的な取組に期待する。
	2 ②令和６年度事業計画 (１) 外部資金獲得向上に向けた戦略的・計画的施策推進 ①独自手法を用いた有力テーマの発掘、②AMED本体、AMED橋渡しプログラム等における応募情報の把握・情宣・応募の戦略的・計画的推進、 (２) 医療ニーズ・シーズに基づく戦略的・計画的社会実装の推進 ①医療ニーズ発表会開催、②医療ニーズと企業シーズのマッチングイベント（ACTjapan主催WISH&SEEDsマッチング会、DSANJ、MDF、バイオジャパン等）への積極的活用 (３) 上記活動とリンクした知財・無形資産獲得活動の推進 (４) 国際的な産学知財活動への拡充検討	②	（１）（２）（３）は下記に示す通り。（４）は、2025年大阪万博でのイタリアパビリオンに、イタリアのデザイン会社と共同出展を計画しており着実に進展している。	A	（１）（２）（３）は下記に示す通り。（４）は、2025年大阪万博でのイタリアパビリオンに、イタリアのデザイン会社と共同出展が決定した。現在詳細を検討している。	最終報告を待つ。	A	大阪万博への対応は次年度も継続的な取組に期待する。
	3 ③令和５年度最終報告課題	③	下記④に記載の通りである。	A	下記④に記載の通りである。				
	4 ④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標） (１)外部資金獲得向上に向けた戦略的・計画的施策 倫理委員会への申請時の研究計画書や動物実験計画書、さらには科研費終了テーマ等から、対象テーマを発掘し、論文投稿、特許出願と戦略的にリンクさせながら本学が代表となる外部資金獲得を狙う。特に日本医療研究開発機構（以下、ＡＭＥＤ）に対しては、過去の募集時期から、今後の募集機を把握し、計画的に準備を進める。令和６年度採択３件を目標とする。 一方、拠点大学ＡＭＥＤ「橋渡し研究戦略的推進プログラム」については、全国１１拠点の事前相談会や説明会の日程を順次把握し学内に情宣するとともに、対象テーマについては専属コンサルタントと共に内容強化を行い、着実に採択数を向上させる（５件以上）。	④	倫理委員会の申請書提出時に同時に提出して頂く産学知財チェックシートで外的資金申請希望にチェックされたテーマや、昨年度ＡＭＥＤ本体やＡＭＥＤ橋渡しプログラムに不採択となったテーマ（６件）、さらには昨年度科研費を終了したテーマ（１４件抽出）の先生方を対象に、ＡＭＥＤ申請の希望をお聞きし拡大を進めている。現在、ＡＭＥＤ本体（新規代表案件）で１件申請を終えている。また、全国１１拠点大学でのＡＭＥＤ橋渡しプログラムについては、順次、公募情報を収集し全学に案内し、事前面談を推奨・実施している。８月現在まだ始まったばかりで、年内に申請が終了し年明けに採否が明確になる。	A	左記の取組みの結果、１月末現在、ＡＭＥＤ本体（新規代表案件）で６件申請を終え、１件採択された。また、全国１１拠点大学でのＡＭＥＤ橋渡しプログラムは、１月現在申請（PreF：２件、シーズA：10件が終了し、その採否待ちである。。	最終報告を待つ。	A	AMED本体については大型案件が１件採択されるなど積極的な取組が確認できる。次年度以降も継続的な取組に期待する。
	5 （２）医療ニーズ・シーズに基づく戦略的社会実装の推進 ①医療ニーズについては、昨年と同様に、全学から医療ニーズの募集を行い、全国２６００社以上の製販企業にそのリストおよび医療ニーズ発表会の開催通知を行う。オファーのあった医療ニーズについては、製販企業と面談し、必要に応じて秘密保持契約、共同研究契約を締結し、関西医大発の医療機器（雑品含む）の導出を目指す（医療ニーズ収集５０件以上、製販企業との継続検討件数１０件以上、上市案件２件以上を目標とする）。 ②医療シーズにおいては、研究対象テーマを、疾病領域とモダリティの観点から整理し、一方で製薬企業のＷＩＳＨ（求める医療ニーズ）をアンケート等で把握し、相互のマッチング確率の向上を狙う。さらに、この取り組みを医療機器分野にも展開する。さらに、大阪商工会議所主催のMDFやDSANJ、バイオジャパン等のマッチングの機会を積極的に活用し社会実装を加速する。 ③上記活動にリンクし、特許出願および権利化、権利放棄を戦略的に推進する。	⑤	①医療ニーズについては、昨年と同様に、全学から医療ニーズの募集を行い、本年度は３５件が集まった。９月中旬には、この３５件のリストを作成し、全国約２６００社の製販企業に送付する。同時に医療ニーズ発表会（１１月２７日に開催決定）の開催通知を同時に行う予定である。 ②医療シーズにおいては、研究対象テーマを、疾病領域とモダリティの観点から整理し、一方で製薬企業のＷＩＳＨ（求める医療ニーズ）をアンケート等で把握し、相互のマッチング確率の向上を狙う取組みを、今年は、医薬品、医療機器の両方の側面から一度に準備を進めている。発表企業および大学の先生もほぼ決定し、１１月７日に開催（本学構内）する予定である。 さらに、大阪商工会議所主催のMDFは、２件（齊藤先生、横江先生）のエントリを行った。齊藤先生は発表済みで、５社から面談オファーがあり実施済。一方、横江先生は10月発表予定である。DSANJは４先生がエントリし、合計１５社からの面談オファーがかかっている。面談は８月２８日～９月５日にかけて実施する。バイオジャパン（１０月９日～１１日：横浜パシフィコ）は、本学から展示ブースを設置する（今年は感覚創薬を中心に）とともに、企業面談も積極的に進めるべく調整している。 ③本年度の特許出願は、上記申請に連動して現在４件出願済（共願含む）である。また外国出願においては、現在で、JST海外出願支援制度の審査エントリを３件行なった。　④社会実装に対する教育として推進している１回生の「イノベーションセミナー」は15回中8回が終了。他、２回生、院生への講義も行った。	A	①医療ニーズは、医療ニーズ３６件を全国の製販企業に配信し、11月27日に医療ニーズ発表会を開催した。面談オファーが、27件あった。 ②医療シーズにおいては、11月7日に本学講堂において「wish＆SEEDsマッチング会」を開催した（参加延べ86名）。 大阪商工会議所主催のMDFは、１件の発表（10月29日）を行い、3社から面談オファーがあり面談を行った。一方、DSANJでは、４先生がエントリし、合計15社からの面談オファーがかかり実施した。うち１社は秘密保持契約を締結し、さらに面談を行う予定である。バイオジャパン（10月9日～11日：横浜パシフィコ）は、本学から展示ブースを設置した（今年は感覚創薬を中心に展示）。企業面談は3日間合計29件行った。 ③本年度の特許出願は、上記申請に連動して2025年１月現在19件出願済（共願含む）である。また外国出願においては、2025年1月現在で、JST海外出願支援制度の審査エントリ10件、うち審査済４件採択２件である。　④社会実装に対する教育として推進している１回生の「イノベーションセミナー」は15回全回終了。他、２回生、院生への講義も行なった。	最終報告を待つ。	A	医療ニーズ・医療シーズについては、継続した取組について外部機関が評価されるなど、徐々に成果が表れている。今後も継続的な取組に期待する。
期中追加 目標・計画									

令和６年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名　研究9	臨床研究支援センター運営委員会
中間責任者②（部長・委員長等）氏名	臨床研究支援センター長 長沼　誠

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）						教育研究推進委員会による点検・評価		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）		該当事項（※1）	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告	
				途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1	CRC支援を中心とした個別の臨床研究支援を強化し、受託件数の増加を目指す（CRC支援の体制強化による臨床研究支援の拡充）。	②・③	７月からCRC１名増員 今年度新たに３件のCRC支援を受託（現在支援件数計 13件）	B	CRC支援件数増加に向けた積極的な取組みを行い、今年度は、４件のCRC支援を受託した （現在支援件数計 14件）	支援件数の増加を期待する。	B	次年度以降も継続的な支援件数の獲得に期待する。
	2	臨床研究支援センター５部門においては、機能的運営を目指し、所掌業務を着実に実施する。	③	各部門予定どおり取組を推進 センター会議資料を一新し、会議の効率化・運営事務の適正化を実施	B	中間報告と同じ	当初計画に基づく進捗を確認した。	B	さらなる効率化に取組んでほしい。
	3	臨床研究力の強化・向上に資する講習会・ワークショップの実施や相談会の開催、医療統計に係る取組等を実施する。	④	前期は、講習会１回、ＷＳ２回実施し、相談会も定期的に開催	B	年間では、講習会２回、ＷＳ３回、相談会は定期的と予定通り実施した	当初計画に基づく進捗を確認した。	B	予定どおりの実施を確認した。次年度以降も継続的な取組に期待する。
	4	附属4病院と必要に応じた連絡・調整、連携、情報提供等を適切に実施する。	③	総合医療センターの臨床研究推進のため、９月からCRC１名を配置転換	C	現在のところ、CRC支援件数の獲得等、特段の成果はあげられていない	配置転換による成果と関連病院との連携強化に期待する。	C	次年度以降も継続的な連携強化に期待する。
	5	臨床研究に係る関係法令等の改正等への適時適切な対応及びこれに伴う関係規程や手順書等の内容確認（点検）と所要の対応等を実施する。	④	特定臨床研究管理者許可について、導入後１年経過し、研究者・病院担当者に必要な手続き等を再周知	B	臨床研究法許可申請システムの申請チェックリストを作成し、申請業務の適正化を図った	当初計画に基づく進捗を確認した。	B	次年度以降も継続的な取組に期待する。
期中追加 目標・計画									

令和６年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名	研究10	倫理審査センター運営委員会
中間責任者②（部長・委員長等）氏名		倫理審査センター長 蔦　幸治

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）						教育研究推進委員会による点検・評価		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）		該当事項（※1）	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告	
				途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1	倫理審査における各種申請及び審査に係る業務を適正に、円滑に、効率的に遂行する。	③	７月から人員減の状態であり、適正な業務遂行のためには人員体制の整備が急務	B	審査業務については、概ね適正に遂行することができた。人員体制は、２月の異動で課長職が配置された。	最終報告を待つ。	B	人員体制も整備され、今後の継続的な取組に期待する。
	2	関係法令や倫理指針等の改正には適時適切に対応することとし、関係規程や手順書等の内容確認（点検）を行い所要の改正等を実施する。	③	今年度は指針等の改正は予定されていないが、より円滑な審査事務のため、ひな形の一部改訂を予定	B	関係規程の所要の改正を行った。 指針等の改正がなかったことから、ひな形の一部改訂を次年度に繰り越すこととした。	最終報告を待つ。	B	次年度以降も継続的な取組に期待する。
	3	実施状況報告及び終了報告の提出率向上に向けた取り組みを実施するとともに、モニタリング及び監査報告書の研究機関の長への提出を促進する。	④	10月から1月に取組み予定	B	10月に実施状況報告の提出率向上の取組みを実施。また、実施状況報告時にモニタリング及び監査報告も同時提出とする促進策を導入した。	最終報告を待つ。	B	提出率向上に関する具体的な成果が見れるよう引き続きの取組に期待する。
	4	業務の効率化に向け倫理審査申請システムの機能改修を実施する。また、各倫理審査委員会委員の教育・研修の受講を促進する。	④	システムの改修項目を検討中 1月から3月に取組み予定	B	研究者の利便性向上のため、申請方法の拡充等のシステム改修を実施。 委員の教育受講促進の取組みを例年通り実施。	最終報告を待つ。	B	システム改修を適切に実施されている。引き続きの取組に期待する。
	5	研究者向けに倫理審査申請業務の支援に向けた取り組み（個別相談対応など）を検討・実施する。	③	研究者から相談があった際、対面での個別相談対応を推進	A	倫理審査に係る個別相談対応（対面、メール等）を積極的に実施した（実績：約10～15件/月）	当初計画に基づく進捗を確認した。	A	新たな取組を実施されたことは評価できる。今後の継続的な取組に期待する。
期中追加 目標・計画									